

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-157267

(43)Date of publication of application : 16.06.1998

(51)Int.Cl.

B41K 1/32

(21)Application number : 08-340555

(71)Applicant : PENTEL KK

(22)Date of filing : 05.12.1996

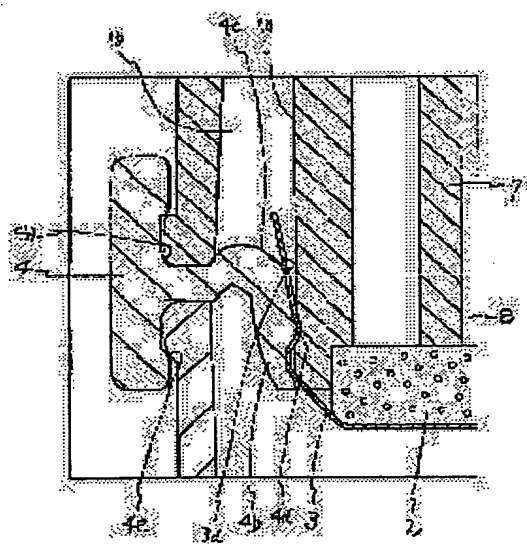
(72)Inventor : KAWASAKI MASAYUKI
UEDA KATSUHIRO
NAGAHAMA MASAMITSU
AKASAKA AKINOBU
HAMAI TOSHIYA

(54) STAMPING INSTRUMENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To restrain the leakage of ink out of a main body even when the ink has exuded along a stamping sheet by a method wherein a sealed space is constituted of a main body and a frame member, mounting the stamping sheet to the main body, and the end part of the stamping sheet is arranged in the sealed space.

SOLUTION: A ditch 1b is formed on a main body so as to surround a pushing body 1a. The ditch 1b of the main body is a sealed space formed of a frame member 4 and a fixing rib 4d, contacted closely with the periphery of the pushing body 1a through a fitting part 4a, abutted against the main body peripherally so as to be liquid-tight, and a stamping sheet 3. The end part of the stamping sheet 3 or a mounting allowance 3d of the same is positioned in the ditch 1b. Accordingly, even when ink has exuded to the end of the stamping sheet 3, the leakage of ink can be restrained since the end part of the stamping sheet or the mounting allowance 3d of the same is positioned in the sealed space.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

BEST AVAILABLE COPY

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-157267

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月16日

(51) Int.Cl.⁶

B 4 1 K 1/32

識別記号

F I

B 4 1 K 1/32

Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-340555

(22) 出願日 平成 8 年(1996) 12 月 5 日

(71) 出願人 000005511

べんてる株式会社

東京都中央区日本橋小網町 7 番 2 号

(72) 発明者 川崎 正幸

埼玉県草加市吉町 4-1-8 べんてる株
式会社草加工場内

(72) 発明者 上田 勝弘

埼玉県草加市吉町 4-1-8 べんてる株
式会社草加工場内

(72) 発明者 長濱 正光

埼玉県草加市吉町 4-1-8 べんてる株
式会社草加工場内

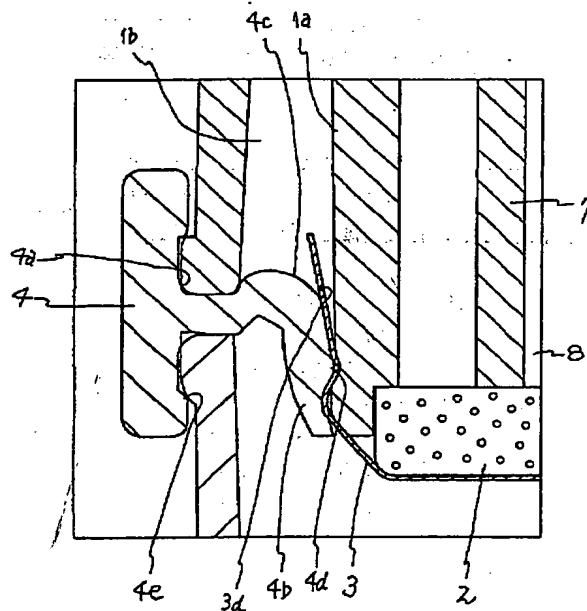
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 押印具

(57) 【要約】

【課題】 組み立て作業が容易であると共に、経時的にインキが滲み出しを極力抑制することができる押印具を得る。

【解決手段】 印面シートの端部を本体 1 と枠部材 4 とにて密閉される堀部 1 b に位置するようになす。



BEST AVAILABLE COPY

【0008】図2に印面シート3の断面拡大図を示す。印面シート3は、ポリエチレンテレフタレートフィルム3aにポリエステル系のホットメルト接着剤3bにて支持体3cを接着した感熱孔版原紙である。ポリエチレンテレフタレートフィルムは薄いほど弱い熱で容易に穿孔するが、薄いフィルムでは、多孔性薄葉紙との接触部と非接触部とで孔の大きさに差が出やすく、全体的に均一な押印ができなくなることがあるといったように品質面で不安定である。また、穿孔したポリエチレンテレフタレートフィルムの支持体となる材質は、マニラ麻、こうぞ、みつまた等の天然繊維、ポリエチレンテレフタレート、ポリビニルアルコール、ポリアクリロニトリル等の合成繊維、レーヨン等の半合成繊維を主原料とした多孔性薄葉紙が用いられる。支持体3cは、天然繊維90%、ポリアクリロニトリル繊維10%の混合繊維である。各部材の平均の厚みは、ポリエチレンテレフタレートフィルム3a；約2 μ m、接着剤3b；約0.2 μ m、支持体3c；2 μ mにしてある。

【0009】インキ吸蔵体2に吸蔵するインキは、従来公知のスタンプ用インキが使用できるが、本例では、フェノール樹脂とポリエチレングリコールとフタロシアニン系油性染料からなる粘度18000cps（25℃）のインキを使用している。特に、印面シート3のインキ透孔よりのインキの吐出性を考慮し粘度5000～38000cps（25℃）のものが好ましく、また、印面シートを構成する材質を溶かしたりこれらと反応したりするものは避ける必要がある。

【0010】図1のI部拡大図である図3に示すように、枠部材4は、外周部に押圧体1aに対して液密に周状当接する嵌着部4aを有し、周状の内方突出部の最内部を印面シート3を挟持するための弾性部4bとし、該部に印面シート3の取り付けガイドとなる曲面部4c及び印面シート3を介して押圧体1aに周状に密着する固定リブ4dを有している。印面シート3及びインキ吸蔵体2を押圧体1aに取り付けるにあたっては、押圧体1aの所定部にインキを吸蔵させたインキ吸蔵体2を置きその上に枠部材4の固定リブ4dにて区画される枠部材4の内孔より大きい印面シート3を被せる。次いで、枠部材4を印面シート3を抑えながら押圧体1aに嵌める。印面シート3は、弾性部4bの曲面部4cと固定リブ4dに押さえられ、周囲から外方向に引っ張られながら固定リブ4cにて固定される。よって、印面シート3はその印面に比較的しわが寄らない状態で固定されることになる。

【0011】本例のもののように、印面として薄いシート状のものを使用する場合は、印面を極力平面となるようにすることが必要である。印面シートにしわ等により凹凸が形成されてしまったものでは、印字跡と共に不要なしわの跡が印字されてしまい、印字跡が不鮮明となるばかりか、本体の押圧体1aと枠部材4とで印面シート

3を挟持している部分が周状に密閉した状態とならず、該部からインキ洩れが発生する恐れがある。

【0012】また、本体1には押圧体1aを取り囲むようにして堀部1bが形成されている。枠部材4は、本体1と液密に周状当接する嵌着部4a及び印面シート3を介して押圧体1aに周状に密着する固定リブ4dとで本体1の堀部1bを密閉空間としている。この堀部1b内に印面シート3の端部分である取り付けしろ3dが位置するようになってある。よって、インキが印面シート3の端にまで浸透したとしても端部分である取り付けしろ3dは密閉空間内に位置することになりインキ洩れが抑制されたものとなる。ここで、堀部1bを含む本体1のインキと接触し得る部分には、シリコン系、フッ素系界面活性剤などの撥インキ性の表面処理を施すことによって更にインキ洩れを抑制することができるものである。但し、本体1及び枠部材3は比較的硬度の高い材質により形成すると、接合部の液密性や部材の固定関係がより確実なものとなり好ましい。本例のものでは、非晶性のアクリロニトリルスチレンを使用している。

【0013】更に、枠部材4は、キャップ体5に対する着脱嵌合部4eを有しており、キャップ体5の嵌合突起と係合する。ここで、着脱嵌合部4eは、印面シート3の突出長さを規定し、押圧量を規制している。即ち、着脱嵌合部4eとインキ吸蔵体2の配置位置又はインキ吸蔵体2の厚みとの関係で押圧量を規制し、インキの吐出量を調整することができるものである。

【0014】以上の他にも本発明の要旨を逸脱しない限りで種々なせるものである。一例を挙げると、本体1は、把持部6など各部剤をそれぞれ別体として組み立てるようになすものであってもよいし、押圧体1aに形成されるインキ逃げ部8をそれぞれ連通するものとして該部に入ったインキが移動し易くなすこともできる。また、空気孔9は、直線状にインキ逃げ部8に連通せず、屈曲状に形成し、該部よりのインキ洩れを抑制することなどでもできる。

【0015】

【発明の効果】本発明の押圧具は、組み立て作業が容易であると共に、経時的にインキが滲み出しを極力抑制することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】一例を示す断面図。

【図2】部材を説明する断面拡大図。

【図3】図1のI部拡大図。

【符号の説明】

- 1 本体
- 1a 押圧体
- 1b 堀部
- 2 インキ吸蔵体
- 3 印面シート
- 3a フィルム

フロントページの続き

(72)発明者 赤坂 明伸
埼玉県草加市吉町4-1-8 ペンてる株
式会社草加工場内

(72)発明者 濱井 敏也
茨城県新治郡玉里村上玉里2239-1 ペン
てる株式会社茨城工場内

BEST AVAILABLE COPY